

会 議 録

会議の名称	平成29年度 第4回 所沢市地域福祉推進委員会
開催日時	平成30年3月26日(月) 14時00分 ~ 16時00分
開催場所	こどもと福祉の未来館 多目的室1・2号
出席者の氏名	中島 修(委員長)、神武 恭子(副委員長)、赤坂 悦、岡村 英雄 柴井 せん、高柳 進、根本 明子、一ノ瀬 麻子、清水 路子、 我妻 明、渡辺 正晴
欠席者の氏名	石渡 博幸、岡村 淳子、西川 達男、安田 有志
説明者の職・氏名	所沢市社会福祉協議会 岩垣主任
議 題	(1) 第2次所沢市地域福祉計画前期評価及び提言書について (2) その他 1・所沢地区拠点事業活動報告 CSWの取り組み 2・地域福祉センターより自主事業の報告 ほか
会議資料	【配布資料】 会議次第 資料1： 第3回委員会にて意見のあった提言書へ盛り込むキーワードの整理 資料2： 提言書・新旧対照表 資料3： 第2次所沢市地域福祉計画 前期評価及び提言書(案) その他： 地域福祉センター主催事業、未来館通信3月号 所沢地区拠点事業活動報告書 CSWの取り組み(ホチキス) 他
担当部課名	福祉部 地域福祉センター 電話04(2922)2115 地域福祉センター センター長 斎藤 伸壽 地域福祉センター 主査 遠藤 康代 地域福祉センター 主任 鹿島 裕太

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局（斎藤センター長）	<p>1. 開 会 開会を宣言した。</p>
中島委員長	<p>2. 委員長あいさつ 今回は今まで皆で議論を重ねてきた提言書をまとめる大切な会議である。たたき台としての提言書（案）があるので、丁寧に見ていって市長に提出していきたいと思う。</p>
事務局（斎藤センター長）	<p>～欠席者の報告～ ～会議の公開の確認～ 傍聴希望者 2名あり ～資料の確認～</p>
中島委員長	<p>3. 議 題 1. 第2次所沢市地域福祉計画前期評価及び提言書について では、議題1について、事務局より説明をお願いしたい。</p>
事務局（遠藤主査）	<p>議題1について、資料1～3により説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回委員会における議論で出た意見、キーワードをどのように反映させたか、また反映させなかった場合の理由等。 ・文字の表記の統一について。 ・提言書案を読み上げ、内容を確認。
中島委員長	<p>今まで議論してきたことが、このように提言書になった。今音読してもらったが、それぞれ皆さんが、想いを持って議論してきたものが、きちんと文章になっているかを確認してほしい。資料2は、前回の提言書との変更点を新旧対照表としてあるがいかがか。</p>
神武副委員長	<p>P8「②人材の育成」の部分の1行目、「様々な活動」の後に「に」が抜けてしまっているの、修正してほしい。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり修正したい。</p>
中島委員長	<p>P8では、人材育成の部分で「想い」の議論をしてきたが「思い」ではなく、「想い」という文字を使った。細かい部分でもよいので皆さんの考えを伺いたい。</p>

渡辺委員	<p>各地区での地域の見守りをする人（民生委員、自治会ボランティア）がいる。それらの人が縦割りで動いているような気がする。これらをまとめていくということはどのあたりに記載されているのか。</p>
中島委員長	<p>提言2のP9に圏域の問題が含まれているが、つながりの部分のことであろう。国でも小学校区程度の圏域で、地域福祉を進めていくよう言っており、提言の中では提言2の②で「まだ身近な圏域というには広範囲・・・」のあたりにニュアンスが含まれているかと思う。</p> <p>前回まではなかった福祉教育の充実について、今回新たに盛り込んだが、この書きぶりについて、専門的な立場から岡村委員はどのようにお考えか。</p>
岡村英雄委員	<p>福祉教育については、学校だけでなく幅広いところで取り組めるようにとしていくべき。これから社会福祉協議会でも新たな試みを検討しはじめているようなので、今後の方向としてはあまり絞りきらず、この内容で問題ないと思う。</p> <p>細かい話だが、「こどもと福祉の未来館」の表記が統一されていないのが気になる。</p>
中島委員長	<p>子どもについて特別するためにも、鍵かっこを入れた「こどもと福祉の未来館」として統一していくのが良い。</p> <p>福祉教育の充実の部分、確かに広く書いてあるが、方向性としては良いとのことである。全体的に、広めに書いてあるところが多いが、もっと踏み込んでほしい部分などあるか。</p>
高柳委員	<p>P9③の地域の現状把握について、将来的には身近な・・・の部分だが、それぞれの地域で、既に現在取り組みが進んでいる。「将来的に～行われるべき」というと、今やっていないようだが、「推進すべき」などの表記がふさわしいと思う。小学校域よりも小さな単位で支え合い活動は始まっている。</p>
中島委員長	<p>現在行政区域としては11、包括等は14の圏域だが、もっと小さな単位での活動は始まっているとのことである。それらの記載をしたうえでの「将来的～」につなげた方が現実に合っているとのことである。関連して、圏域の書きぶりなど、清水委員のご意見はいかがか。</p>
清水委員	<p>地域包括は14か所だが、地区ごとの課題や活動なども差があり、把握していない活動も多いかと思う。そういったことから「将来的」ではなく、現実として進んでいるものとする。</p>
中島委員長	<p>このあたりの書きぶりは、どうしても行政区11、包括・民児協14という議論があつてのものでこうなったが、実際はもっと動いている部分もあるということである。</p>
神武副委員長	<p>P10の権利擁護の部分について。この部分は、認知症高齢者のためだけでなく、単</p>

	<p>身高齢者、非婚者が増えていくとより必要となる部分である。権利擁護だけだと象徴的すぎるので、「成年後見人」というワードを盛り込んでいく方がわかりやすい。単身者にとっては重要なことだと感じる。</p>
中島委員長	<p>権利擁護というのは成年後見制度なども含んだ言葉だが、このままだと伝わりにくいというご意見である。市民の皆さんに伝わる言葉としていかないといけない。 ボランティア活動に対する思いというところで、柴井委員のご意見はいかがか。</p>
柴井委員	<p>現在では、高齢でもボランティア活動ができる人も多い。若い人を活動に取り込んでいくかも大事だが、元気な高齢者について盛り込めないか。また、出来たら横文字をなくしてほしい。「コーディネートスキル」などというのはわかりにくい。</p>
中島委員長	<p>地域共生社会については、支え手と受け手を分けないという考え方。高齢であっても支える側に回れる、双方向型の社会であるというニュアンスが盛り込まれると良い。 カタカナ言葉については、「スキル」を例にとると、技術などいろいろな和訳があるが、上手い日本語が見つからず悩んだ部分。検討させてほしい。</p>
根本委員	<p>今までの色々な意見をまとめ、提言書に仕上げてもらい感謝している。CSWIについての記載が、文中にアルファベットだけで出てくると分かりづらい。横断的なつながりについての記載があったと思うが、横のつながりで情報交換したり皆で手を取り合っていける場が出来たらいいと思う。今回「生きがい」「想い」と修正していただいたことは良かったと感じている。</p>
中島委員長	<p>P9の社会福祉協議会CSWIについて、確かにわかりにくい。別のところではコミュニティソーシャルワーカーとの記載もあった。横断的なつながりについては、拠点のところでも横断的な意味合いが含まれているのだろうが、作業部会で議論した内容などがより見えるようにとのことであった。</p>
我妻委員	<p>P8で、人材育成の部分は②では高齢者への支援者の育成で、③の福祉教育の充実が若者向けという認識でよいのか。</p>
中島委員長	<p>必ずしもそうではないが、そのように見えがち。②はどうしても、地域で活動するボランティアの年齢が上がってきているということで、次の世代にどう活動をつないでいくかということが作業部会でも議論したのでそれを盛り込んだと言える。若い世代にもっと活動してほしいという思いを込めている。 ④も労働力の提供だけが地域活動かというところではない、忙しく活動できない人でも寄付することで地域活動に関われるということも言いたかった部分。皆さんからも意見が多かった。そういうところで②③④あたりは、トータルであらゆる世代にという意味合いを込めたかった。</p>

岡村英雄委員	改めて見ていたら、②人材育成の部分は、「特に高齢化の問題」となると、認知症が増えているのかなんだかわかりにくい。『その担い手の』高齢化」とした方がより担い手が高齢化しているのだということが伝わる。
中島委員長	確かに「特に担い手の高齢化」とした方がわかりやすいので、直していきたい。
一ノ瀬委員	最初音読をしていただいたときは、内容がよくわからなかったが、皆さんの質疑応答を聞いていたら、なんとなく形がつかめてきた。権利擁護というのも何のことかと思っただが「後見人」といわれれば理解できる。わかりやすい言葉にしてもらえたらと思う。 (提言書を受け取る)市長は理解できるのだろうが、我々にはなじみが薄い言葉である。
中島委員長	県の計画を作った時にも、言葉の問題は出てきて、その際はコラムのような形で用語の説明をした。どうしても作っている人間にはわかるが、初めての方には理解しづらい。少し具体的な事例が入ると良いかもしれない。
事務局（斎藤センター長）	(提言2の)権利擁護体制の部分について、事務局からすると成年後見制度について言っている。相談窓口では「権利擁護」という言葉を用いているが、これまでのご意見を聞くと、成年後見制度とした方がわかりやすいのか、と感じたところ。
中島委員長	文言の加筆修正については、全体的にわかりにくいところをどうしていくか。特に地域福祉の分野では、関係者にしかわからない言葉も多い。
赤坂委員	皆さんがおっしゃっていたことが修正されていくと、より分かりやすくなるかと思う。特に加筆してほしいことはない。
中島委員長	本日出来ている提言書(案)は、内容としては、今まで皆さんが関心を持って議論してきたことがおおむね網羅されているのではないかと。後は読んで意図が伝わるかどうかというところ。事例を入れるとそれに引っ張られることがあるが、イメージしやすいように加筆していく。前回提言書では、用語の解説などは入れていないことでよろしいか。
事務局（斎藤センター長）	(市長に提出する)提言書なので、コラムや用語解説を掲載することが適切かどうかというところ。
中島委員長	わかりやすくするために、例えば、基本的なキーワードだけを、今までの計画の中の用語解説を引用することは可能か。あまり多くのせてもと思うが。計画書を作るときはボリュームもあるので、巻末に用語解説を付けるのが一般的だが、提言書レベルだとあまりないかもしれない。そうすると、(読んだ人が)もう少し具体的なイメージを持ると良いが。
神武副委員長	この提言書は、市長に提出するのか。議会に提出するのか。

事務局（斎藤センター長）	<p>市長に提出するもの。その後、市長に提言が提出されたということで、議会にも情報提供することになる。</p>
中島委員長	<p>市長に提出し、（その後市として）この提言書に基づいて次の計画の策定に向けて進んでいくということである。委員の我々が、今後こうしてほしいというメッセージを市長に向けて発信するというもの。（文書をわかりやすくするための）比較的簡易な方法としては、イラストや写真をいれていくなどあるが、提言書にはあまり用いられない。表現方法については、本日の意見をもとに、修正をしていく。内容的には漏れなどないだろうか。</p> <p>（各委員、うなずき了承）</p>
中島委員長	<p>それでは概ね内容はこれでよろしいということ、言い回しについては、表現方法を少し考えるということとしたい。それでは、提言書の提出について、事務局の方から説明願いたい。</p>
事務局（遠藤主査）	<p>今いただいたご意見をふまえて、提言書を最終調整し、確定する。過去の提言書提出にあたっては、市長に直接面会して提出している。現在、委員長の予定と市長の予定を調整しているところ。今までのパターンだと、委員長・副委員長のほかに1～2名の委員に同席してもらっている。日程調整の用紙を配付しているので、参加可能な日程に丸を付けて提出して欲しい。日程確定後、参加可能な方と個別調整をする。</p>
中島委員長	<p>ぜひ市長に直接提出したいという方は、出席していただけたらと思う。では提言書についての議題は以上としたい。</p> <p>続いて、議題2のその他について、事務局よりお願いしたい。</p>
事務局（遠藤主査）	<p>その他として、議題が2つある。一つ目は、社会福祉協議会によるCSWの配置については、皆様ご承知のことであるが、ここで先行配置を行った所沢地区について、実績の報告を行ってもらおう。その後、二つ目として、地域福祉センターの自主事業についての報告をする。社会福祉協議会 所沢地域包括支援センターの岩垣職員に来ていただいているので、お願いしたい。</p>
社協 岩垣職員	<p>資料「所沢地区拠点事業活動報告書」に基づき説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CSWの取り組みの一つとして、所沢地区に設置した「拠点」における活動について、27年度から実施し3年が経過。 ・ CSW→既存の制度で解決できない課題について、一人一人に寄り添った支援。（制度につながらない人、地域とつながらない人へのアプローチを大事に） ・ 複数の課題を抱える世帯の増加（高齢者＋ひきこもり、ゴミ屋敷、虐待・・・） ・ 課題のある世帯に対するCSWの支援→まずは既存制度の活用、制度の狭間につ

	<p>いては、サロンやこども食堂や学習支援を通じ、人と人とのつながりを作り、そこから社会へつながる一歩を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在 14 地区に一人ずつ配置しているが、カバーしきれない。地域福祉サポーターや民生委員・児童委員とともに活動をしている。 ・拠点の活用の経緯、人を集める様々なしかけの工夫。(カレーの日、カフェ活動) ・拠点を通じた個別ケースへの支援についての事例紹介。 ・拠点を支える「地域福祉サポーター」元氣なシニア世代→過去の経歴から様々なスキル有 ・拠点活動を通じ、地域の様々な人と交流をすることで、拠点が周知され地域の安心できる場所になっていると言える。 ・今までのサロン→支え手と受け手が完全に別。拠点でのカフェ活動は参加型。全員が誰かのために役に立つという思いに、強いつながりが出来て、みんなが安心できる場所となっていたように思う。 ・今後も活動の継続はもちろん、市内各地区に誰もが歩いていける範囲で設置を目指していきたい。より安心できる顔の見える関係の地域となっていくのではないかな。 <p>(報告後、岩垣氏は退席)</p>
中島委員長	<p>社会福祉協議会として、CSWを全地区配置したところだが、こういった活動を行っている。続いて、未来館での自主事業についてお願いしたい。</p>
事務局 (遠藤主査)	<p>資料「地域福祉センター自主事業」に基づき、1月の会議で報告できなかった事業について説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度講演会 ・地域福祉みらいフォーラム ・親がもしもの時の介護サービス利用講座 ・パンケーキデコレーション体験 <p>また、自主事業ではないが、社協による「災害ボランティアセンター立ち上げ訓練」についての説明を行った。</p>
中島委員長	<p>所沢社協のCSWについて、今後の進め方について行政と検討していることなどはあるのか。</p>
事務局 (斎藤センター長)	<p>社協からは、人数をふやしたいというニュアンスの話は聞いているが、具体的な計画などは聞いていない。</p>
中島委員長	<p>今回の提言書にも、CSWについては盛り込まれている。本日は社協の岡村委員が欠席であるが、社協として今後どのように進めていくのかは聞いてみたいところ。</p>
渡辺委員	<p>災害ボランティアセンターの訓練の参加者はどのような人たちか。地域に案内状が来</p>

	<p>ていたのか。</p>
事務局（斎藤センター長）	<p>もともと災害ボランティアとして登録をしている人がいる。実際に災害が起きてセンターが立ち上がった時に、運営者になっていただく人たちである。それらの人たちを中心に行った訓練である。</p>
中島委員長	<p>補足すると、実際に災害が起きると、平時のボランティアセンターの体制では、人数が足りず機能しなくなる。東日本レベルとなると、普段の百倍の案件を裁くこととなる。社協職員ではまわらないため、市民の中から災害ボランティアを養成しておき活躍してもらうものである。</p> <p>みらいフォーラムについて、参加者は昨年よりも多いのか。</p>
事務局（遠藤主査）	<p>ほぼ昨年並みである。</p>
神武副委員長	<p>岩垣職員は退席されたが、社協CSWの報告について、予算の確保や他地区での展開を聞きたかった。</p>
事務局（斎藤センター長）	<p>詳細は不明であるが、財源については共同募金の基金などを原資としていると認識している。</p>
神武副委員長	<p>ずっと続けることとなっても、運営費を確保することは可能なのか。</p>
事務局（斎藤センター長）	<p>基金財政は健全なものだと聞いている。共同募金への寄付が基金の安定運営につながる。</p>
中島委員長	<p>予定していた議題はすべて終わったので、事務局へお返しする。</p>
事務局（斎藤センター長）	<p>今後についての説明、また岡村英雄委員が3月末をもって退任されるため、挨拶をいただきたい。8年9か月にわたり、委員会を支えていただいた。</p>
岡村英雄委員	<p>仕事の関係で、今月末で退任させていただく。第2次計画は策定時から関わっており、思い入れのある計画だが、今回皆さんと議論を重ねながら提言書をまとめることが出来て光栄に思う。今後は、一市民として委員会での審議を気かけながら、所沢の地域福祉の推進について関わっていきたい。</p>
事務局（斎藤センター長）	<p>岡村委員からは、後任の委員候補者についてもご紹介いただいたところ。委解職事務については滞りなく進めたい。また、事務局でも人事異動の内示があり異動者が生じたので挨拶させていただきたい。</p>
事務局（北田）	<p>第1次計画の策定にあたっては、近隣市でも先行的であったため手探りの状態であっ</p>

次長)	たと聞く。計画スタート後の進捗管理から関わったが、地域福祉は日々変化していると感じる。新たに社会福祉法も改正されたが、計画についての位置づけも、様々な分野別の福祉を包括的に見ていくというようになっている。今後とも皆様には、地域づくりについてさらなるご協力いただけたらと考える。
事務局（斎藤センター長）	福祉総務課から丸3年お世話になった。地域福祉が担当と聞いたとき、何の事かもわからなかったが、皆様のご指導の下、ようやく理解でき始めたところでの異動となった。様々な場面においてご協力いただき、感謝申し上げます。
中島委員長	お二人には、社協とのつながりの部分や成年後見制度の分野についてもご支援いただいた。大事な方が異動されるのは残念だが、人事異動については仕方のないことである。年度の最後なので、植村部長からも一言いただけないだろうか。
植村部長	本日は長時間にわたっての熱心なご審議、感謝申し上げます。委員長はじめ皆様のご意見により、文言等の修正をして、市長の方へ提出していきたい。年度も新たとなるが、引き続き皆様にはご協力をお願いしたい。
4・閉 会	
閉会を宣言した。	

--	--

第4回会議録として承認する。

委員長署名